

## 18. 越前国府関連遺跡発掘調査

所在地：市内5箇所で開催（表1のとおり）

調査原因：越前国府関連遺跡発掘調査事業

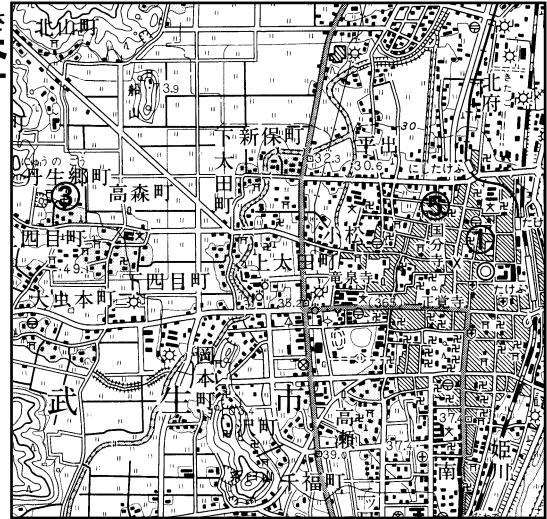
調査期間：平成23年6月8日～

平成24年3月30日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：297.7 m<sup>2</sup>（6箇所合計）

時代：古代～近代



位置図（S=1/50,000）

**調査の概要** 平成20年度から5ヵ年計画で実施されている越前国府関連遺跡調査事業も今年で最後の年を迎えることになりました。昨年度は、越前国府関連遺跡が存在する可能性の高いエリアの中で、5箇所調査を行いました。今回の報告ではその5箇所の内、遺構、遺物の検出された3箇所について報告します。

**地点1** この地点は越前市役所のすぐ北を走る大正通り沿いに位置しています。去年の調査で、柱穴や溝跡などが発見され、特に調査区の西側で発見された大溝から多くの須恵器や土師器などが発見された為、今年度も昨年度の北隣で調査を実施しました。調査結果は昨年同様、現状地盤より40cmの深さで明黄褐色の地山層が検出され、その面から柱穴や溝跡などが発見されました。そして昨年発見された大溝の続きも検出され、そこから多くの遺物が発見されました。今回の調査場所は平成8年度に発見された「国大寺」等の墨書土器の出土地点に近く、出土状況など類似点が多かった為、今回の調査区でも墨書土器の発見が期待されましたが、発見された墨書土器は1点のみでした。

**地点3** この地点は丹生郷遺跡の範囲内に位置しています。丹生郷遺跡は越前国府関連遺跡の推定範囲より2kmほど東に位置しており、昭和63年に行われた発掘調査で、「丹生郷長」や「五月郷」と書かれた墨書土器などが見つかった遺跡です。周囲にも大虫廃寺跡や丹生郡衙と推定されている高森遺跡などがあり、律令期の重要遺跡が集中していることから、今回調査を実施することになりました。

調査の結果、この地点は少なくとも二つの時期があることが確認されました。二時期の内、古い面は川跡であり、調査区全体がその川跡の上に位置していました。川跡は調査区の外まで広がっていた為、川幅などは分かりませんが、東西軸に流れていたものと思われます。そしてその上に黄褐色の土が乗り、新たな面が作られていました。その面から柱穴と推定される穴や土壇などが検出されました。土師器皿の土器溜まりも発見されました。

**地点5** この地点は国府遺跡の範囲内に該当します。調査の結果、現状地盤から約100cmの深さより土壇、井戸跡などが検出されました。検出された遺物より、時期については近世～近代であると考えられます。

**まとめ** 平成 23 年度の調査では主に中世～近代の遺跡が発見されたものの、国府に関連する遺跡は発見されませんでした。ただし、今回の丹生郷遺跡の調査のように、これまで縄文時代や律令期の遺跡と見なされていた遺跡内から、中世時代の痕跡が確認されたことなどは、これまでの認識に新たな知見が加わったという点で、貴重な発見と言えると思います。

(野沢雅人)

**表 1 平成 23 年度調査地一覧**

	遺跡名	年代	遺構	遺物
1	府中城跡	中世・近世	大溝、溝、柱穴	須恵器、土師器、土師器皿、越前焼
2	国府遺跡	—	—	—
3	丹生郷遺跡	—	—	—
4	丹生郷遺跡	古代・中世	柱穴、土壇、川跡	須恵器、土師器、土師器皿、越前焼
5	国府遺跡	近世・近代	井戸	須恵器、陶磁器



地点 1 (府中二丁目)



地点 5 (桂町)



地点 3 (丹生郷町) 東側



地点 3 (丹生郷町) 西側